

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.55 (2020.10.27)

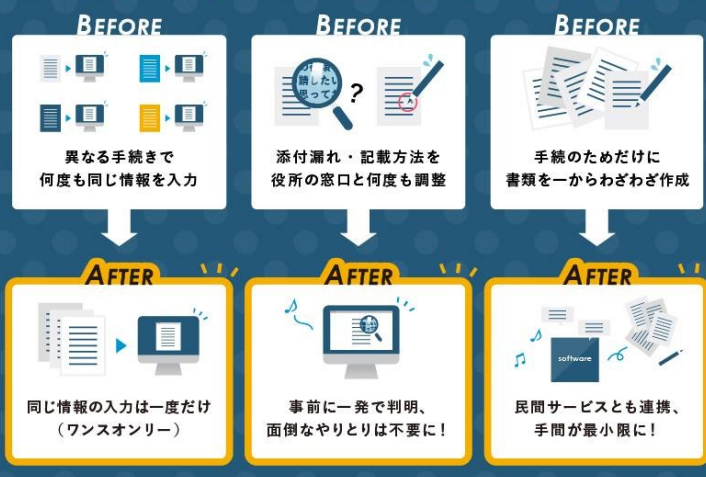
令和2年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
全てのステークホルダーの満足度向上
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

昨年あたりから"DX"という言葉が登場しました。D はデジタルの D というのは理解できるのですが、X が何を意味しているのか分からず、横文字には比較的強いつもりだった私ははじめは戸惑いました。「デジタルトランスフォーメーション」という意味ですがこれでも良くわからないと思います。ネットで調べると、DX とは一言でいうと「企業がデータやデジタル技術を活用し、組織やビジネスモデルを変革し続け、価値提供の方法を抜本的に変えること」とあります。また経済産業省が発表した「DX 推進ガイドライン」によると、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と定義されております。つまりは「IT 技術を駆使してビジネスモデルや会社などの組織を変革すること」と言えます。コロナ禍の現在はまさに「激しい環境の変化」と言えます。だからこそ一層 DX が注目されておりテレワークや ZOOM 会議はその取り組みのひとつと言えます。

右上の表は経済産業省が発表しているものですが、私たちの仕事に当てはめてみると良くわかります。資材・外注先からの現場への請求書の打ち直し⇒データで請求書をもらう、発注者との打合せを対面や添付ファイルで行う⇒システム上で処理など、少し考えるだけでも無駄な作業を削減することができますし、菅総理が目指すデジタル社会はまさに DX を基軸にしたもので、私たち建設業でも積極的に取り組む事で、働き方改革・ワークライフバランス・生産性の向上に直結する取り組みです。経営計画発表会でも説明した通り、「進取の気性」の社風を目指す当社としても果敢に挑戦して参りますので社員の方のご理解とご協力をお願いします。

より簡単に、より早く！面倒なお役所手続きから解放。



新潟市高橋さつ子宅訪問

昭和 17 年に和賀組に奉公に来たサツちゃんの家を鈴木監査役と訪ねてきました。昔の写真や貴重な思い出話を聞くことができ、大変貴重な旅となりました。大正 14 年生まれで 95 歳、階段の上り下りも問題なく、記憶力も抜群なサツちゃんでした。皆さんに宜しくとの事でした。



ノーザンハピネット

当社がスポンサーとなっている秋田ノーザンハピネット社長の水野勇氣さんが 10/1 に訪ねて来られました。今年からは R+ハウス秋田北の下に株式会社和賀組のロゴも入ります。テレビの左コート上に映ると思いますので見つけて下さい。



湯沢ロータリークラブ

10/10 土曜日、湯沢ロータリークラブの家族例会が東成瀬村で開催されました。鹿島建設様のご厚意で 55 トンダンプの運転席に座ることができました。タイヤ 1 本 150 万円だそうです。

